

【日本貿易統計（22 年 7 月）】

貿易収支は 14 ヶ月連続で赤字

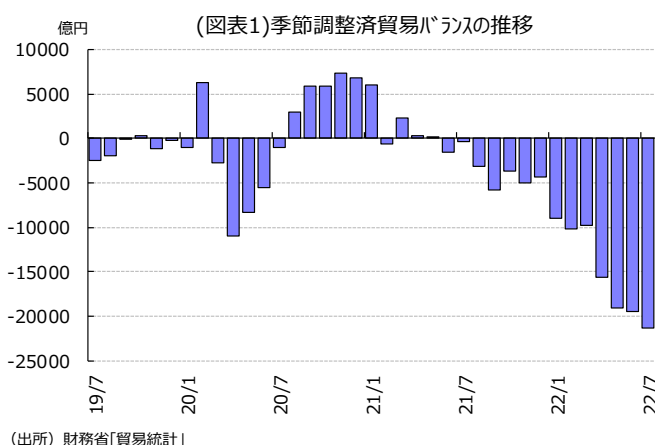
～今後、輸出は失速のおそれ～

経済調査部 エコノミスト 前田 和孝

1. 季調済の貿易収支は 14 ヶ月連続の赤字

財務省から発表された 7 月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+19.0%と、6 月の同+19.3%から小幅ながら伸びが鈍化した。輸入金額は同+47.2%で、こちらは前月の同+46.1%から伸び幅が拡大した。

季調済前月比では、輸出金額が+2.1%、輸入金額が同+3.5%で、いずれも前月からプラス幅は縮小した。季調済の貿易収支は▲2 兆 1,333 億円と、14 ヶ月連続で赤字となり、赤字幅も拡大した（図表 1）。エネルギー価格の上昇を背景に、輸入金額の伸びが輸出金額の伸びを上回る状況が続いている。



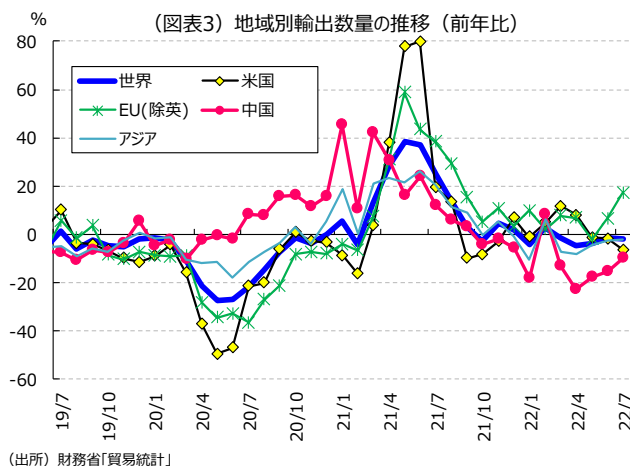
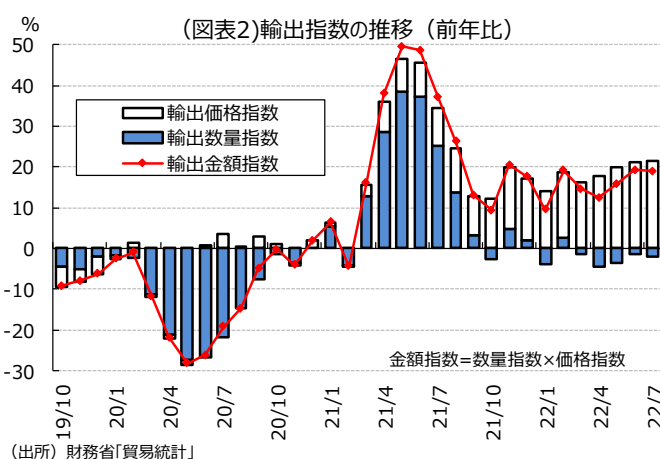
2. 米国向けは勢いを失いつつある

輸出金額の前年比を価格と数量に分解すると、価格指数が前年比+21.5%、数量指数が同▲2.0%となっている。数量指数はこれで 5 ヶ月連続のマイナスであり、輸出の実勢は弱いままである（図表 2）。

品目別に数量の伸びを見ると、半導体等製造装置（同+33.0%）が 3 割を上回る伸びとなる一方で、鉄鋼（同▲18.9%）や自動車（同▲5.3%）はマイナス圏に沈んでいる。

主要相手国・地域別の数量指数では、米国向けが同▲6.2%（6 月：同▲1.7%）、EU（除英）向けが同+17.4%（同+6.7%）、中国向けは同▲9.9%（同▲15.1%）となった（図表 3）。中国向けは上海のロックダウンが 6 月 1 日に解除されたものの、持ち直しの動きは鈍い。米国向けは 3 ヶ月連続でマイナス幅が拡大しており、景気減速の影響が懸念される状況にある。

一方、EU（除英）向けは 2 ヶ月連続のプラスとなった。品目別では、半導体等製造装置（同+165.9%）や自動車



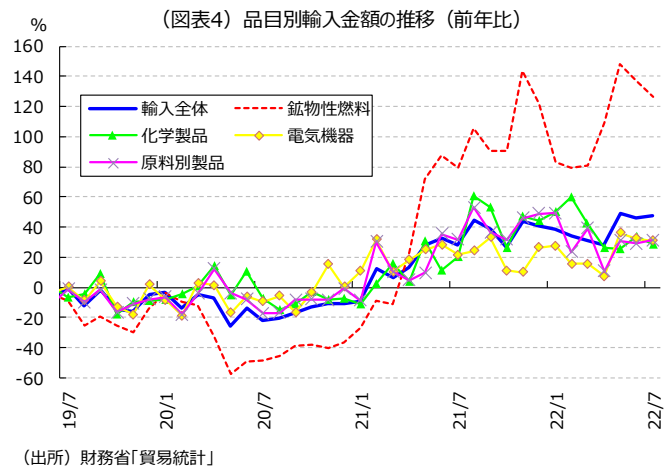
(同+46.3%)などの寄与が大きい、持続可能なレベルの伸びではない。

3. 輸入金額の押し上げはエネルギー価格が主因

輸入金額の前年比を価格と数量に分解すると、数量指数が前年比+2.3%なのに対して、価格指数は同+44.0%と、4ヵ月連続で4割以上の伸びとなった。

品目別では、構成比で約30%を占める鉱物性燃料が前年比+126.1%（寄与度：+24.6%ポイント）となっており、これだけで輸入金額の増加の5割以上を説明できる（図表4）。内訳を見ると、原油及び粗油が同+107.3%、液化天然ガスが同+124.1%、石炭が同+269.5%と、いずれも高い伸びとなっている。一方、数量ベースでは、原油及び粗油が同+3.8%と小幅の伸びにとどまったほか、液化天然ガスは同▲0.4%、石炭は同▲2.0%とマイナスに転じており、金額ベースの伸びとの開きが大きい状態が続いている。

鉱物性燃料以外の主要8分類を見ると、食料品が前年比+30.7%（寄与度：+2.8%ポイント）、原料品が同+16.7%（同+1.5%ポイント）、化学製品が同+28.4%（同+3.3%ポイント）、原料別製品が同+31.3%（同+3.1%ポイント）、一般機械が同+32.3%（同+3.0%ポイント）、電気機器が同+30.9%（同+5.0%ポイント）、輸送用機器が同+8.0%（同+0.2%ポイント）、その他が同+30.3%（同+3.8%ポイント）となっている。円安の影響などもあって、鉱物性燃料以外の品目も高めの伸びが続いているが、なかでもエネルギー価格が輸入金額を大きく押し上げている構図は変わらない。

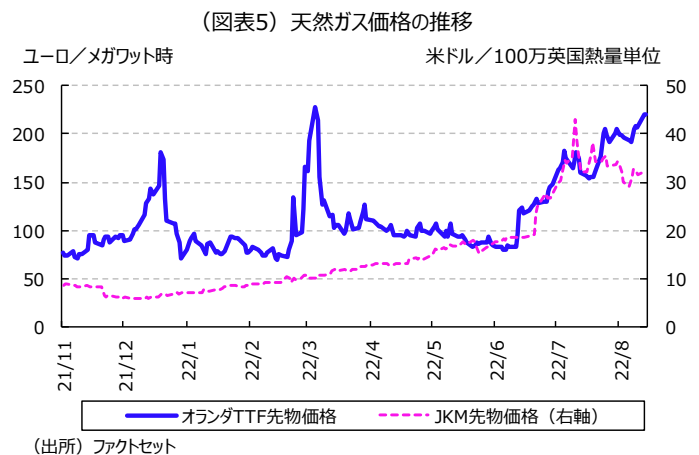


4. 輸出は失速に向かうおそれ

今後、輸出は失速に向かうおそれが高まっている。米国景気は、ソフトランディングが困難な情勢であることが次第に明らかになりつつある。欧州でもインフレが加速、景気が力強さを欠くなかでも ECB（欧州中央銀行）は利上げを急がざるを得ない。中国景気は、ゼロコロナポリシーと不動産市場の低迷が続くなか、今後も低空飛行が続く可能性が高い。2023年度にかけて、輸出は低迷が続くと予想する。

貿易赤字は当面の間、高水準の状態が続く公算が大きい。原油価格は、FRB（米連邦準備制度理事会）の利上げペースが一段と加速し、米国景気の持続性に対する不透明感が高まったことなどから、6月以降、上昇トレンドが一服している。ロシア産原油に関しても、中国やインドが主要な買い手となっており、当初懸念されたような過度な供給不安は後退しつつある。今後、原油価格はさらに水準を切り下げる可能性を見込むが、ウクライナ情勢の膠着状態は続くことを考えれば、低下幅は限定的なものにとどまろう。

また、欧州の天然ガス価格は再び200ユーロ/メガワット時を上回って推移している（図表5）。ロシアがノルド・ストリーム1経由での欧州向けのガス供給量を絞っていることが主因である。EUのロシア産天然ガスの輸入依存度は他のエネルギー源と比べて高く、引き続きロシアからの供給不安に晒され続ける可能性が高い。欧州向



け天然ガス価格の上昇に連動する形で、日本をはじめとする北東アジア向けの LNG（液化天然ガス）指標である JKM 先物価格も高止まりしている。天然ガスが日本の電源構成の約 4 割を占めることを踏まえると、今後も輸入金額は高止まりが見込まれる。

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411